

研究所だより

研究所責任者 武 敏夫

七十六回示現会展本展も無事終わり、各地にて支部展開催中の今日この頃ですが、今年の梅雨は激しい大雨に見舞われ福岡支部もやることながら、秋田の病院で診療医として働いている友人の自動車も水没とのこと、なんと元氣付けたものか悩んでおります。

七月九日(日)臨時事務局会議が招集され、三時間ほどの討議でしたが、今後の示現会運営について、絵画制作希望者の減少等の先の見えない中での会議でしたが、我が示現会のみの問題では治まらないう、画壇全体の課題でもあり一時的な緩い解決案のみが飛び交い、根本的な解決策には至りませんでした。

会館を持たない他の団体では、高齢化と共に会員の減少となる問題で経営難として目前に迫っています。

幸せなことに研究所でもある示現会会館の建物を財産として持ち、経費としてかかるのも光熱費、管理費、会館老化による修繕費位のものです。

以前駒込駅北口の画材店二階の間借りで研究所を開設してい

た頃と比べて、現在の会館は設備も良く、今少し講座の開催も企画できますし、受講生の増加も期待されます。

昔の示現会を知る先生方が少なくなりましたが、今一度原点に戻り、何が為に示現会研究所があるのか、苦しい時代に役員、先生方が、心を一つにして育て創り上げて下さった「示現会」です。

先輩先生方が残して頂いた数々の教えを後世に伝え繋ぐと共に、新しい絵画芸術の世界へと前進しようではありませんか。

何時の日にも多くの画家さん達の笑い声が聞こえる「芸術村示現会」が続きますことを夢に見て。



研究所案内ホームページ